

**WE
ARE
UG
BY**



**RUGBY
WORLD CUP™
FRANCE 2023**

はじめに



18 23年11月、ウィリアム・ウェップ・エリスの頭の中で、何か普通でないことが渦巻いていました。上手く進まないフットボールの試合の途中、このイギリス人の生徒は、ボールを両手でつかみ、相手の選手全員を注意深くかわしながら、相手陣のゴールまで突進したのです。

狂った行為？いいえ、それは新しい何かを生み出す行為でした。ラグビーが生まれた瞬間だったのです。2023年、喜ばしくも私たちが史上10大会目のワールドカップという機にその200周年をフランスで祝うとする、ラグビーの誕生でした。

ラグビーは、多くの点において独自性を持つスポーツですが、そのことが最もよく表れる機会となるのがワールドカップです。この「唯一の格闘系チームスポーツ」は、同時に「他競技がすれ違うだけであるのに対し、お互いが真に出会う唯一のスポーツ」でもあります。矛盾しているでしょうか？いいえ。ラグビーが理的に保ち続けるべき《激しさ》と《良識》の二つは、その間に違いが存在しながらも互いに調和するものなのです。

ラグビーがどこに向かうかを理解するためには、それがどこから生まれたのかを、決して忘れてはなりません。「ラグビー校」のフィールドから、ウィリアム・ウェップ・エリスの自由の突進から生まれたことを。本能的な衝動、予測不能なことへの嗜好、この「因習破壊」の欲求から生まれたことを。その根源的な激しさはラグビーのDNAを成すものであり、かつラグビーを際立たせるものであるため、ラグビーは決してそれを放棄してはならず、そこから離れてはならないのです。

ラグビー創造のエスプリに立ち戻ること、そして、共有価値を基にひとつのジェネレーションを生み出すこと——。これこそが2023年ラグビーワールドカップに課されたミッションなのです。

これら全ては、チームワークの力によって、新しいコミュニティに接することによって、そして新たな地平を拓くことによって可能となります。2023年ラグビーワールドカップでは「私たち」という集団が、その全ての意義を担うのです。

クロード・アジェ

ラグビーワールドカップ2023フランス
CEO

**WE
ARE #2023*
UG
BY**

ラグビー ワールドカップ

ラグビー ワールドカップの 歴史あれこれ

ラグビーワールドカップは、1987年以來、4年に1度開催されています。インターナショナルラグビーのベンチマークとなる大会であり、あらゆる選手にとっての「聖杯」です。2023年、5大陸から、20チームに分かれた600人の選手が、優勝国に授与されるウェブエリス・トロフィーを夢見て、フランスにやって来るのです。

伝説

ラグビーワールドカップ大会では、毎回記憶に残る人物が出るように、歴史上にも大きな軌跡を残します。思い出してください。アパルトヘイトへ政策への制裁で第1回、第2回大会ともワールドカップへの参加が阻まれていた南アフリカにて初開催された1995年の第3回大会を。熱狂に包まれたエリスパークに立った、あの「スプリングボックス」こと南アフリカ代表チームを。キャプテンのフランソワ・ピナルとネルソン・マンデラ大統領の姿を。そして、ラグビーボールを囲み実現した国民的和解の瞬間を。

普遍性

大会テーマ曲である「ワールドインユニオン」の約束にあるように、ラグビーワールドカップは、「小国」が「大国」に立ち向かうことのできる唯一の大会です。この「ダビデとゴリアテの戦い」とも言える、いくつかの快挙がワールドカップの大会で目撃されてきました。最近の例でいえば、2015年、スリリングなサスペンスの最後に待っていた、ジャパンチームの対南アフリカ戦における34対32の見事な勝利がありました。「ブレイブ・プロッサムズ」のウィニングトライが記録されたのは試合時間84分のことでした！

エンターテインメント





ラグビーワールドカップでは数多くのトライが生み出されていますが、その中には劇的というべきトライが幾つもあります。「フレンチ・フレアー」と言えば、とりわけ、フランス初のワールドカップ決勝進出の扉を開けた、1987年のオーストラリア戦での、セルジュ・ブランコの忘れることのできないトライが思い起こされます。ですが、ニュージーランドの国家全体の希望を打ち砕いた、フィリップ・ベルナサールの1999年のトライもそうです。2007年10月のあの夜、トリコロールの国旗をまとったフランスの選手たちが「ハカ」の前に立ちはだかり、その日「ダーク・デストロイヤー」の異名を獲得した、ティエリー・デュソワールのトライも忘れてはなりません。

秀逸さ

特別な大会、特別な選手たち。ラグビーワールドカップは、史上最も偉大な選手たちによって、彩られてきました。ランダムに名前を挙げてみると、象徴的なキャプテン（ショーン・フィッツパトリック、ジョン・イーブルズ、リッチー・マコー）、トライ記録保持者（ブライアン・ハバナ、ドリユー・ミッチェル、シェーン・ウィリアムズ）、名キッカー（グラント・フォックス、ギャヴィン・ヘイスティングス、ジョニー・ウィルキンソン卿）…。しかしながら、誰か1人だけを選ばなければならないとすれば、それは恐らく、大会最多トライ記録（15）保持者で、1990年代中盤に、競技的にもメディア的にも異次元の存在だった、ニュージーランドのウィング、ジョナ・ロムーということになるでしょう。

フォーエバー

美しい物語もまた、ラグビーワールドカップを特色づけるものとなっています。聞いてみて下さい、2015年大会のアイランドに敗れた後、ウェンブリーのピッチ上で結婚のプロポーズをした、ルーマニア代表のフロリン・スルジウに！

年	ホスト国	優勝国
1987	 ニューージーランド&オーストラリア	ニュージーランド 
1991	 イングランド	オーストラリア 
1995	 南アフリカ	南アフリカ 
1999	 ウェールズ	オーストラリア 
2003	 オーストラリア	イングランド 
2007	 フランス	南アフリカ 
2011	 ニューージーランド	ニュージーランド 
2015	 イングランド	ニュージーランド 
2019	 日本	
2023	 フランス	



1987



1991



1995



1999



2003



2007



2011



2015



2019



#2023

史上10回目

となる ワールドカップ



ラグビー誕生から 200周年!

1823-2023



45日間 にわたる 祭典!

2023年9月8日～
10月21日2023

2,583,326枚

9会場における 販売チケット数



450,000人以上 外国人観客の来場者見込み



フランス全土における 祝祭

2023年ラグビーワールドカップは、厳格で公正なプロセスを経て選ばれた10のホスト都市にて開催されます：ボルドー、リール、リヨン、マルセイユ、ナント、ニース、パリ、サンドニ、サン・テティエンヌ、トゥールーズ

フランス人の 80% が

- 2023年ラグビーワールドカップを良いことだと考えています。
- 大会会場から2時間以内の場所に住んでいます。

大会9会場



スタッド・アトランティック
ボルドー
BORDEAUX

42,115席



スタッド・ピエール・
モーロワ
リール
LILLE

50,095席



スタッド・デ・リュミエール
リヨン
LYON

59,186席



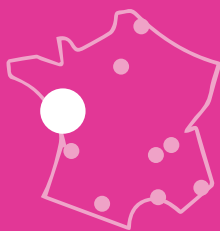
スタッド・ヴェロドローム
マルセイユ
MARSEILLE

67,404席



スタッド・ド・ラ・
ボジョワール
ナント
NANTES

35,322席



© Rodolphe DELAROCHE - Ville de Nantes

スタッド・リヴィエラ
ニース
NICE

34,615席



© Fred AGUILHON

スタッド・ド・フランス
サン・ドニ
SAINT-DENIS

80,056席



© Fred AGUILHON

スタッド・ジョフロワ・
ギシャール
サン・テティエンヌ
SAINT-ETIENNE

41,965席



© Saint-Etienne Métropole

スタジアム・ミュニシパル
トゥールーズ
TOULOUSE

33,150席



© Toulouse Métropole



© Isabelle PICAREL - FFR



世界が目撃者

今日、ラグビーワールドカップは、国際スポーツカレンダーにおける、メジャーイベントとなっています。近年の大会、特にヨーロッパで開催された大会では、スタジアムの中だけでなく外でも、熱狂が高まっています。

209の国で放送された2015年大会は全世界で新たな視聴者を獲得し、史上最も視聴された大会となりました。ワールドラグビーによる数字によれば、合計視聴者数は**10億人**に達しました。2015年に最も視聴されたスポーツであり、この年のイギリス、フランス、ニュージーランド、そしてアイルランドにおける、最高視聴者数を獲得したのです！そして2023年は、**メディア関係者3000人以上**が、第10回ラグビーワールドカップの取材でフランス入りするものと見込まれています。

ラグビーワールドカップは、ネット上でも成長を遂げています。2015年、第8回大会でのSNSにおけるリーチ数は**15億人**に及びました。この時に作られたハッシュタグ #RWC2015 は、インターネットユーザーにより1分間で120回使用されたこととなります。

サーチエンジンのGoogleでは、2015年ラグビーワールドカップが**2億4600万回**検索されました。同年に上映された、「スターウォーズ」シリーズのエピソード7以上です！



パワフルな経済的インパクト

ワールドカップ・フランス大会組織委員会は、開催国として立候補した時点で、大会開催における経済的インパクトを調査しましたが、大会の直接的影響を**11億ユーロ**と推定しています。これらの利益は、主に主催地域を潤すことになるでしょう。

この調査のベースとして考慮されたのは、ワールドカップ目的でフランスへ入国する外国人旅行者数(2023年に**45万人**)、増大するラグビーのメディア露出、それによりさらに増加する一般視聴者数、そして大会開催地とした選ばれたスタジアムの総収容観客数です。

2023年ラグビーワールドカップは、国内に**1万7000の雇用**を創出しサポートすることにもなるでしょう。

2015年大会も、ラグビーワールドカップの増大する経済的成功を証明しています。**9億8300万ユーロの直接的インパクト**が、大会を機にイングランドを訪れた国外からの訪問者の活動によって生み出されました。この第8回大会で販売されたチケットは合計で**247万枚**以上のほります。

国外からの訪問者は、1人あたり平均で、**14日間**をイングランドで過ごし、**2760ユーロ**を消費していました。

集会的ガバナンス

ラグビーワールドカップ2023組織委員会は、公益団体の形を取り、2018年5月に3団体の連合によって誕生しました：
フランスラグビー協会 (FFR)、フランス政府、フランス・オリンピック・スポーツ委員会 (CNOSF) の3団体です。

理事会と総会



環境に配慮したプロジェクト

2017年3月18日、ラグビーワールドカップ2023は、「スポーツイベントにおける15の環境責任誓約」憲章に署名し、エコフレンドリーな活動を表明しました。

組織委員会は、フランス都市・青少年・スポーツ省とWWF両者の間で調印されたこの憲章を通じ、以下の環境課題に取り組もうとしています。

- 食品は、最低 **50%** は持続可能産地からのものとする
- 移動は、最低 **80%** をアクティブ・モビリティ（※徒歩や自転車などの、人力での移動手段）、公共交通機関、カーシェアリング（※車の相乗り）で行う
- 調達購買の最低 **80%** は、CSRの選択基準を考慮したものとする
- ゴミを25%削減し、**60%**を再利用、リサイクル、もしくはアップサイクルすること
- 自然に **100%** 配慮した場所で大会を行う
- エネルギーと水の使用は、**100%** 控えめにし、適切に行う
- 公共の場は、**100%** 身体障がい者のアクセスを可能とすること
- ボランティアを **100%** 評価すること

組織委員会の役割

協約に基づき、ラグビーワールドカップ2023組織委員会は、以下のことを主要任務に据えています。

- 競技、技術、法務、財政、それぞれの点で、ラグビーワールドカップ2023を設計し、資金を調達し、運営し、それを世に届けること。
- とりわけ開会式と閉会式を通して国際的なフランスの価値を高め、フランスの観光業と経済発展に資すること。
- フランスと世界に対し、ラグビーワールドカップ2023のプロモーションを行うこと。
- 地方自治体（市町村、県、地方）と連携し、各地でチームと観客を受け入れること。
- フランスラグビー協会と共に、ラグビーの発展プログラムを策定し、ワールドカップ2023のレガシーを構築すること。

一年間の 作業内容

nov.

2017年11月15日

ロイヤルガーデンホテル(ロンドン)

アイルランドと南アフリカとの競合の結果、ワールドラグビーの加盟協会と大陸地域連盟により、フランスが2023年ラグビーワールドカップの開催国に選ばれる。

dec.

jan.

2018年1月9日

ワールドラグビーとの最初のワーキングセミナーが行われる。フランス2023のチームとワールドラグビーのシナジーに基づきワールドカップの準備が公式に開始される。

feb.

mar.

2018年3月10日

スタッド・ド・フランス(サン・ドニ)

公益法人 #FRANCE 2023 が、公式にスタート。ビル・ポーモン(ワールドラグビー会長)、ベルナル・ラポルト(フランス協会)、エドゥアル・フィリップ(フランス首相)、ジャン=ミシェル・ブラン(CNOSF)らが出席の下、組織委員会の協定が調印される。

apr.

may

2018年5月15日

ホテル・デザール・エ・メティエ(パリ)

組織委員会の理事会と総会が、初の会合が開かれる。クロード・アチュがCEOに、ジャック・リヴォアルが会長に選出された。

...

oct.

2018年10月8日

ラグビーワールドカップ2023のアイデアと未来を予測するラボ「#LAB2023」が公式にスタート。

nov.

2018年11月15日

テアトル・ド・ラ・ミュチュアリテ(パリ)

ラグビーワールドカップ2023フランス大会のロゴが発表される。



2017年11月15日
ワールドカップ2023開催国決定



2018年3月10日
協定調印

© Isabelle PICAREL - FFR

明日へと向かう ワールドカップ

#LAB2023

2018年10月に初めて集結した#LAB2023は、来る2023年ラグビーワールドカップの課題を、集团的に検討することを目的とし、組織委員会によって創設された、**未来予測とアイデアのラボ**です。

なぜなら、ラグビーワールドカップ2023は、単なる45日間の大会であることを超えて、選手、観客、コミュニティ、メディア、スポンサーなど全ての**関係者を動員して巻き込み、あらゆる体験を提供する場**でありたいと考えるからです。

ラグビーがこのプロジェクトの中心であるからには、#LAB2023もラグビーの試合形式にならない、40分ハーフの前後半をもって開催されます。その中でメンバーたちは、それぞれの意見やアイデアを出し、経験を共有したりするのです。前後半の間には10分間のブレイクが入ることで、過去の美しき思い出を振り返りながら、未来をより良く先取りする準備をすることになるのです。

#LAB2023は、各方面からの**エキスパートパネル**によって構成されています。各方面とは、起業家、未来学者、料理シェフ、音楽業界関係者、メディア、CSR、スタートアップ企業などです。この多領域性が#LAB2023の原動力となります。ラボは意外性のある場所、しかしながら考察を深めるのに適した場所を選んで、年に3、4回集う予定です。



© Xavier MUYARD

第1回目の#LAB2023ミーティングで、下記3つのテーマが浮上しました。

■ メディア&テクノロジー：

「2023年までにメディアとテクノロジー分野ではどんな経験が可能になっているのだろうか。その頃、視聴者はさらに細分化し、コンテンツのカスタマイズが重要になり、リアルとバーチャルが交錯する拡張経験の時代になっていると言われる…。」

■ エンターテインメント：

「ラグビーワールドカップ2023フランス大会は、ブランドとして2023年までに、スポーツ以上の何かを、見る人全てに対して提示しなければならず、音楽、美食、祭典などを通じて多様な経験を創出しなければならない…。」

■ 社会：

「ラグビーワールドカップ2023は、ラグビーが持つ美徳を抛り所に、社会の絆の(再)創出に貢献しなければならない。その美徳とは、献身、チームワーク、そしてリスペクト……」

ネクストステップ

2019

1月

パートナーシップ・プログラムの開始と、ラグビーワールドカップ・リミテッド(RWCL)による第1回目のヴェニューツアー

6月～9月

開催都市との契約締結
ローカルコーディネーション委員会の設置

10月

日本でのラグビーワールドカップ2019年大会の視察プログラム参加

12月

チケット仮予約の開始

2020

1月

キャンプ地の予備選考

4月

ボランティア・プログラムの開始

9月

レガシー・プログラムと持続可能ディベロップメント・プログラムの開始

12月

公式ホスピタリティー・エージェンシーの発表
ラグビーワールドカップ2023組み合わせ抽選会

2021年 第1四半期

フランスラグビー協会の認定業者による、チケットおよびパッケージ商品の販売開始

激情あふれるイベント そして意義を運ぶもの

他にない激情のスポーツ

気骨ある男女がプレーするラグビーは、その内にたぎる強烈な力を否定することはできません。しかし同時に、ラグビーにおける二つの大事な柱である「激しさ」と「直観」の間で、調和を見出す必要もあります。ラグビーは身体の強さと戦術的側面が表現されるコンタクトスポーツである一方、相手をかかわしながら、友愛の精神を感じる直観的なスポーツでもあるのです。「激しさ」と「直観」が交錯するこの二重性が、ラグビーに特異性を授けているのです。

ラグビーは他とは異なるスポーツであり、私たちは、このワールドカップについても、他とは異なるイベントになることを望んでいます。

この競技が人を際立たせるものだとなると、ラグビーワールドカップ 2023 は、その本質を再び取り戻すことで、ラグビーが再びその調和を見出す一助になりたいと願っています。その本質とは、ウィリアム・ウェブ・エリスの「破壊的」行為によって、1823年11月に、常軌を逸した自由の突進から生まれたスポーツの本質のことです。

つまり「因習破壊」という願望、不意を突く欲求、不測の味わい…といった本質です。ウィリアム・ウェブ・エリスの伝説、そして彼の名こそがワールドカップと深く結びついており、2023年大会におけるインスピレーションの恒久的な源泉とならなければなりません。

深い意義

自身を「ラグビーウーマン」や「ラグビーマン」と名乗るのに、ラガーシャツを着る必要はありません。

ラグビーとは、ピッチの外でも表現されるものです。ラグビーは単なるスポーツである以上に、それが個人的なことであれ職業的なことであれ、1人1人の中に響きうる精神の在り方を指しています。

献身、チームワーク、そしてリスペクトの美徳を共有する人は皆、心にラグビーを持っていると言えるのです。

ラグビーは、手、時に足を使いますが、同時に、とくに頭の中でもプレーされるものです。

私たちの確信を私たちのアクションの原動力とし、決して逆境にも諦めることなく、チームの力で私たちの限界を乗り越えること……。これこそが**「私達自身がラグビーそのものである」(ウイ・アー・ラグビー)**と言える状態なのです。

WE
ARE
UG
BY

ラグビーワールドカップ2023アンバサダー “ラグビーな人”たち

THEY ARE RUGBY, THEY ARE #2023

マノン・アンドレ MANON ANDRÉ 跳ね返る、もっともっと

2014年、フランス代表でグランドスラム(※女子6ネーションズ)を達成したマノンは、チームワークの価値の何たるかを、良く理解しています。最近、競技から引退した彼女は、トゥールーズに拠点を置き、困難な状況にある人たちの教育、社会的ないし職業的統合のために、ラグビーを手段とする団体、「ルボン(Rebonds!)」の活動に参加しています。



© Pierre Charlier

アリアヌ・ブロディエ ARIANE BRODIER より大きく、より強く、より真っ直ぐに

女優、プレゼンター、コメディアン、の肩書を持つように、アリアヌは実に多才な女性です。しかしそれ以前に、モンペリエのキャプテンでフランカー、そして彼女のパートナーであるフルジャンス・ウエドゥラオゴと同じく、彼女は生粋の闘士なのです。最近の彼女の優先事項とは？エドゥラオゴがブルキナファソ出身であることから受けるSNS上のヘイトメッセージと人種差別的な侮辱に立ち向かうことです。この精神的闘争において、#2023はアリアヌを応援します。



© Matt Vindl / KCS PRESSE



© Les Étoiles de Mougins

クリステル・ブリュア CHRISTELLE BRUA 不可避を乗り越える力

男性が支配的な美食の世界にあって、プレ・カトゥラン(Pré Catelan)のシェフであるクリステルは、「世界レストラン最優秀パティシエ」に輝く、初の女性となりました。2018年10月9日、マラケシュでの受賞です。

アドリアン・シャルマン ADRIEN CHALMIN スポーツ、そしてそれ以上のもの

大事故に遭い、19歳で四肢麻痺となったアドリアンは、フランスのパラスポーツ界における、有力選手の1人です。車椅子ラグビーの選手として、パラリンピック2012年ロンドン大会と2016年リオ大会に参加しています。トップレベルのアスリートとして、自身が設立者であり会長であるハンディ・スクール(Handi' School)協会を通じて、ハンディキャップに対する若者たちの意識喚起活動も行っています。



© Dicoodesport

ソフィアヌ・シェラット SOFIANE CHELLAT 精神的闘争の先頭に立つ

マッシーでプレーするプロのラグビー選手であるかたわら、アルファティファ・モスクの協会のボランティアと共に、パリ北部地区の生活困窮者を支援することを目的とした、援助プログラムに参加しています。



© Le Parisien



ドミニク・クロシュ DOMINIQUE CROCHU

かけがえのない絆

ドミニクにとって、ジェンダー・ダイバーシティは、単なるスローガンではなく、スポーツの世界における包摂を押し進める、大きな力です。デジタル業界の企業家である彼女は、2002年、フランスサッカー協会のディレクターのポジションに就いた、初の女性となりました。フランス協会における、女子サッカー発展の先駆者であり、フランスのスポーツ統括団体における、あらゆるジェンダー・ダイバーシティを推進しています。

モー・フォントゥワ MAUD FONTENOY

常に立ち上がる

生来の冒険家であるモーは、海の荒波を鎮めるのと同様、人生の試練を克服してきました——強さと献身によって。大西洋、次いで太平洋をオールで漕ぎ上げた後、新たな冒険への航路を取りました。とりわけ、2002年に、海を保全する必要性を若い世代や一般の人々に周知することを目的とした、自身の基金の立ち上げは彼女の人生の転換期となりました。



マリア・ムテラ MALIA METELLA

夢へと努力する勇気

2004年アテネオリンピックのメダリストであるマリアが、水泳から異なる道を選ぶ決断をしたのは、わずか27歳の時でした。模範的なセカンドキャリアを積んでいます：プールの外に出た彼女は、スポンサリングとイベントの分野へ転向し、それらを卓越したスキルで見事に成し遂げてきました。



エリザベト・クヌー ÉLISABETH KOUNOU

瞬間を味わう

デジタルマーケティングのスペシャリストであるエリザベトには、示導動機があります。どんな状況においても、人生を薔薇色に見ることでありますが、それは、彼女の仕事の面と私生活の面、どちらにおいても同様です。旅行が大好きな彼女は、デジタルテクノロジーを成長に役立てたいと考える女性起業家をサポートする、「ファムブルヌーズ・アカデミー」(Fempreneur Academy)の創業者です。



サンドラ・ラウラ SANDRA LAOURA

モチベーションと模範性

2006年トリノ冬季オリンピックの銅メダリストであるサンドラは、足の自由を失うことになる危険な滑降により、フリースタイルスキーヤーとしてのキャリアが突然終わるという経験をしました。しかし、この不幸な事故により彼女の不断の意志が打ち負かされることはありませんでした。今日、フランス・オリンピック・スポーツ委員会で、パリ2024やその他の大規模イベントの任務に当たる彼女は、2018年、これまでに歩んできた感動的な軌跡を讃えられ、引退後のキャリアで成功を収めたスポーツ選手に与えられる、「女性のキャリア転換賞」でトロフィーを受賞しました。



カミロ・レオン・キハーノ CAMILO LEON QUIJANO

決して諦めない

コロンビアの写真家で、社会学の博士課程に在籍するカミロは、社会的そしてジェンダー的なステレオタイプに向かって、自分たちを表現する手段をラグビーに見出す、フランスのサルセル(Sarcelles)でプレーする10代の女子選手たちを、密接に追ってきました。その作品は、フランス国外のメディア(ワシントンポスト、ブリティッシュジャーナルオブフォトグラフィー)から称賛を受け、2017年のサウンドスライドショー大賞(Le Prix du Diaporama Sonor)最優秀賞に輝きました。



© Digitaly

© Mameidy Doucara

© L'Obs

© Vendée Globe

© Fempreneur Academy

© Camilo Leon Quijano

© Sipa Press



フロラン・マンドゥー FLORENT MANAUDOU

先人たちに学ぶ明日の英知

姉のロールが、女子フランス人水泳選手として初のオリンピック金メダリストとなった時、フロランはまだ13歳でした。2004年アテネ大会の時のことです。8年後、ロンドンにて、男子フランス人選手として初の50m自由形金メダリストとなり、フロランもスポーツ史に名を刻みました。

ジュリー・ガイエ JULIE GAYET

不断の意志

2009年東京国際映画祭にて最優秀女優賞を受賞したジュリーは、「ルージュ・アンテルナショナル」という名の制作会社の代表を務めています。生粋の企業家であり、女性の健康に関する基金の後見人であり、子宮内膜症情報協会(l'Association Info-Endométriose)の共同設立者でもあるジュリーは、華やかさと強い意志の両方を持って、価値ある仕事に取り組む人なのです。



© L'U

© France TV



フレデリック・ミシャルク FRÉDÉRIC MICHALAK

全ての人々の勝利に歓喜

長く輝かしいラグビー選手としてのキャリア(2001~2018)を持つフレデリックですが、とりわけ、2007年のワールドカップ準々決勝で、フランス代表が伝説的な勝利を収めたオールブラックス戦の、立役者であることが特筆されます。そのラストパスが、逆転勝利(20対18)を決めたヤニック・ジョジオンのトライにつながり、国全体を狂乱の渦に巻き込み、フランスのスポーツ史における、最も素晴らしい快挙をもたらしました。

ヤニック・ニヤンガ YANNICK NYANGA

リスペクト、常にリスペクト

アグドゥ(Agde)に始まり、ベジエ(Béziers)とトゥールーズ(Toulouse)を経てコロンブ(Colombes ※チーム名としてはラシング92)へと渡り歩いた、ラグビー選手としての濃密なキャリア(2002~2018)において、ヤニックは所属した場所全てで、模範とされてきました。よく仕事する選手であり、疲れを知らぬ闘士である彼は、このスポーツの最も高貴な徳性を体現しています。



© L'U

© Pierre MAHIEU



ティエリー・プティ THIERRY PETIT

意志ではなく、できるかどうかの問題

Showroomprivé.comの共同設立者でありCEOであるティエリーは、CSRを重要課題の1つにしています。ルーベ(Roubaix)の施設において、協力者全体に対し、作業時間の一部を、失業者達の再雇用を支援する活動を行うShowroomprivé基金に割り当てることを奨励しています。

アリゾン・ピノー ALLISON PINEAU

自分の最奥部にあるものの実現

足首の重い怪我のため、アリゾンは2017年世界女子ハンドボール選手権ドイツ大会に出場することができませんでした。献身的なセンターバック(代表戦223試合出場)であり、2009年に世界最優秀選手に選ばれた彼女は、手術を経て復帰し、フランスハンドボール代表を世界大会優勝に導きました。真のロールモデルです。



© L'U

ウェンディ・ルナール WENDIE RENARD

チームのための献身

家族、そして故郷のマルティニークから遠く離れて、ウェンディは夢の実現に向け、勇気を奮い立たせなければなりません — プロサッカー選手になるという夢です。今日、オリンピック・リヨネのキャプテンを務め、フランス代表 101 キャップを持つ彼女は(まだ 28 歳!)、女子サッカー界で最も輝かしい記録を持つ選手の1人です。



© Twitter @WRenard



メリナ・ロベール=ミション MELINA ROBERT-MICHON

静かに、山をも動かす

2016年のリオにおいて、メリナは、37歳でオリンピック女子円盤投げの準優勝に輝きました。2018年6月に第2子のエノラ(Enora)を産んだ彼女は、競技に復帰し、彼女にとって6回目のオリンピックとなる、2020年東京大会への出場を計画しています。

クロード・ルイス CLAUDE RUIZ

独りでは絶対に勝てない

クロードは、2018年10月にオードゥ県を襲った洪水で、施設が被害を受けたラグビークラブ、ECV(アンタントゥ・コンク・ヴィルムストゥー: Entente Conques-Villemoustausou) XV の、歴史的会長です。彼は、団結とチームワークの力で、クラブの復興が可能と信じています。



© LD



セドリック・シレ CÉDRIC SIRE

変革する

USA ヘルピニヤンのファンで、キャップジェミニ社の元広報責任者であるセドリックは、創業10年を待たずにオンラインのエンターテインメント業界のリーディング・メディア・グループに成長し、フランスで1ヶ月間に2900万のビジター数を誇るWebedia (Allociné、PurePeople、Le Stream、750 g など)の共同設立者です。

© Le Nouvel Economiste

アグゼル・テサンディエ AXELLE TESSANDIER

チームの力で、自分の限界を全て越えることができる

デジタルコミュニケーションのコンサルティング会社、アクスル・エージェンシー(Axl Agency)の創業者であるアグゼルは、「女性と共に変革」を目指すケア・コミュニティ『WondHer』の編集長も務めています。スポーツの、平等の、そして均一性の価値を愛する彼女は、誰もがベストを尽くすことを可能にする、チームワークのパワーを信じています。



© SLPA Press / Viva Tech



タンタン TIN-TIN

私たちの確信は、私たちの行動の原動力

タンタンは、全てがまだ手探りだった時代に、初めてタトゥーを本格的なアートとして捉えた1人です。兵役義務での陸軍兵士だった時代にタトゥーイングを始めて35年、今日、彼はフランスで最も著名なタトゥーアーティストであり、そのスタイルと技能は、至る所で認められています。

© Thomas KRAUSS

アリス・ヴァシェ ALICE VACHET エネルギーを2倍に

「大胆」、「異様にアクティブ」……。彼女について家族や友人たちが語る言葉から、アリスがいかに活力に満ちた女性であると想像できるでしょう。そのことは、彼女のキャリアにも表れています。TV局カナル・プリュス(Canl+)と大型スーパーマーケットチェーンのカルフルーに勤めた後、新たなチャレンジを求める彼女は今日、著名なフリーランスのデジタルエキスパートとして知られ、2017年に「ファミ・アン・ヴュ(Femme en Vue)」賞を受賞しました。



© Twitter - @AliceVachet



© LD

アルベルト・ヴォジュメール ALBERTO VOLLMER 漂流の回避

南米を拠点とするアルベルトは、ベネズエラ最大のラム酒造メーカー、サンタ・テレサ(Santa Teresa)のオーナーを務めています。暴力で腐敗した国で彼は、前科者たちが働き……そしてラグビーをすることで社会復帰を可能にする、「アルカトラズ・プロジェクト」を主宰しています。実に社会的なミラクルです。

ミカエル・ユン MICHAËL YOUN 恐怖に立ち向かう

ミカエルは、奇抜なパロディ、ありえないハプニングを提供する、トラブルメーカーとして知られています。ですが、フランスに笑いを提供してきた番組『Morning Live!』や映画『ファタル』での「芸人、吟遊詩人、歌手」といった面だけではなく、彼は感覚の鋭いアーティストであり、仲間意識のエスプリを愛し、ワーカホリックという一面もあります。



© LD



© Gold and Goose Photography

ジョアン・ザルコ JOHANN ZARCO もっと強く生きる

強烈なスリルを愛するジョアンは、今日、プレミアカテゴリーのオートバイレース、モトGPにおける、最多キャップ数を誇るフランス人ライダーであり、ヴァレンティノー・ロッシ、アンドレーア・ドヴィツィオーゾ、マルク・マルケスらと肩を並べています。2019年には、世界タイトルの獲得を目指し、KTMチームに加わる予定です。

WE
ARE #2023
UG
BY

WE ARE #2023

ジェネレーションの誕生

秀逸でオープンなスポーツであるラグビーは、現代的で、高貴で、ユニークな価値を通じて、**あらゆるジェネレーションをポジティブにインスパイア**し、変えて行く、ユニークな力を持っています。今からラグビーワールドカップ 2023 を自分たちのものにしていくジェネレーションです。

この約束に従い、#2023 は、このオープンさを体現し、**新しい人々を招き**、彼らに発言してもらわなければなりません。気持ちやラグビーウーマンやラグビーマンである人々は、その資格を持っています。

ラグビーワールドカップ 2023 は、チームワークの力で開催しようとしています。

その価値を体現し、同じ内なる力を分かち合い、同じ主義と同じ願いに突き動かされた男女によって構成される、**固く結束したチーム**です。

あらゆる領域に開かれた、**多様性に満ちたチーム**です。スポーツ領域はもちろんのこと、美食、映画、企業、そして音楽……。

ラグビーを超えたイベントを作るため、**あらゆる人々と接し**、相違性から力を引き出す、パワフルでメッセージとなるチームです。

出会い

ラグビーワールドカップ 2023 は、2023年9月8日から10月21日にかけて開催されます。9つのホスト会場で行われる48試合を超えた、**45日間の壮大な祭典**であり、価値を伝えるというプロジェクトに集う全ての人たちを一体化させるイベントです。

#2023 は、**人々を再結合**し、絆を作り、一大国際スポーツイベントをその士気向上のユニークな手段として捉える、フランスの国民を団結させるイベントでなければなりません。

よって、#2023 は、誰にとっても親しみやすく、観客とつながり、共有されるワールドカップとなることを望んでいます。関わる全ての人たちに、**能うる最高の体験を提供し**、スタジアムの内と外とを問わず、**観客が選手に最大限近づることができるようにする**……。こうしたことが、#2023に向けた、私たちの野心です。

そして、楽しみが極力長く続くよう、フランス国外から来る19の出場国は、ラグビーワールドカップ 2023 の閉会式に参加するよう、大会最終日まで滞在するように招待されています。**19の国、19の異文化が、フランス国民と接する**のです。

私たちの目標は、ラグビー48試合を開催するだけでなく、ワールドカップ 2023 という国際的なフェスティバルに、**ホスト国に暮らす国民を充分に取り込むこと**、そして、そのことで彼らが、自分ならではの情熱と理性をもった道を歩むことです。



情熱と理性を伝えるロゴ

独自性：国際統括団体ワールドラグビーにとって先例のない、革新的で、ユニークさを掛け合わせたロゴ。

パワフル：砕けることのない絆、メビウスの輪のように無限で、私たち1人1人の脈打つ心臓のように強く、女性と男性、人々を結び付けるという願いが込められています。

モダン：再構成された青白赤の、デザインを変えたトリコロール国旗は、フランスを特徴付ける、由緒と現代性のバランスを表しています。

不断の意志を持つ者たちへ、
声を上げぬも山をも動かそうとする者たちへ、
黙々と堪え…そして常に前を向く者たちへ。

チームへの自己犠牲を哲学とする者たちへ、
チームのために震え、何が起きようとも
国旗を守ろうとする者たちへ、
輝く目を持ち、国の勝利に心から
歓喜する者たちへ。

先人たちから明日への英知を学ぶ者たちへ、
破れてなお避け難きを乗り越える力を身につけ、
より大きく、より強く、
真っ直ぐになろうとする者たちへ。

信念を行動の源とする者たちへ、
顔を上げ、決して諦めない者たちへ。

勝利にも常に謙虚で
負けてなお威厳を保つ者たちへ、
夢に向かって戦う勇気ある者たちへ。

WE
ARE#2023
UG
BY

もし君が
どれだけ自分に自信を持っていても、
独りで勝つことは絶対にできない。
だけど、チームの力があれば、
君はあらゆる限界を超えられる！

もし君にとって
権力などどうでもよく、
胸の奥に秘めた何かを成し遂げたいと
思う心があるなら、
強く生きたい、
恐怖に立ち向かい、心の闘争を起したいと
願う心があるなら、
ただひたすらに誠意を持ちたいと願うのなら、

我々とただひとつの絆を分かちあおうではないか。

スポーツ人であろう、さらにその先へ行こう！
ともに新たな世界へ進もうではないか。

WE
ARE#2023
UG
BY

WE ARE

#2023



RUGBY
WORLD CUP™
FRANCE 2023

連絡先

マリー・ウゾ MARIE HOUZOT

事務担当

+33 (0)6 15 18 05 50

marie.houzot@france2023.rugby

アントワーヌ・オブール ANTOINE AUBOUR

マーケティング&コミュニケーション

+33 (0)6 42 42 48 07

antoine.aubour@france2023.rugby